

令和元年度 卒業式 校長式辞 (2月28日)

白亜の校舎を映す池の水も煌めき、播磨灘を吹く爽やかな風に、春の兆しを感じられる今日の佳き日に、多数のご来賓並びに保護者の皆様のご臨席を賜り、兵庫県立明石西高等学校第四十二回卒業証書授与式を挙げていただけますことは、私たち教職員にとりまして、この上ない喜びでございます。

ただいま卒業証書を授与しました 三百四十七名の皆さん、ご卒業おめでとうございます。本校は、「自律・協同・誠実」の校訓のもと、知・徳・体の調和のとれた国際社会に飛躍する人材の育成を追求するとともに、「チャレンジ明西」を合言葉に「生き生きとした魅力ある学校づくり」を推進しています。皆さんは、三年間にわたる本校での生活の中で、試行錯誤を繰り返し、いくつもの壁を乗り越えて、今日ここに卒業の日を迎えました。皆さんの努力と精進に対して心からの賛辞と祝福を贈ります。

卒業式に臨み皆さんには、どのような思い出がよぎっているのでしょうか。二月発行のPTA会報に皆さん一人一人が書いた「西高での思い出」が掲載されています。一番多かった思い出は、台湾の修学旅行やイギリスの研修旅行、次に、体育大会や明西祭、校外学習などの学校行事でしたが、「行事もちろんやけど、何気ない日常全てが最高でした」や「学校に来ることがとにかく楽しかった」、「友達や仲間と毎日楽しく過ごせたこと」、「昼休みのおしゃべりが楽しかった」など、楽しく過ごした学校生活を思い出に掲げている人も多かったです。また、「たくさんの友達ができたこと」、「尊敬できる先生と大事な友達と出会えたこと」、さらに、「最後まで部活頑張れたこと」、「部活を通して視野を広げられたこと」、「勉強。受験勉強。就活頑張ったこと」、「新たな自分を発見できた三年間」など、自己の成長を自覚できたというメッセージもありました。

さて、皆さんのこれからの生きる指針、目標は何でしょうか。それを既に見つけている人、迷っている人、また、進学してから考えるという人もいるでしょう。現在の激動する社会においては、就職しても永遠にその仕事を行えるとは限りません。新たな壁にぶつかった時に、何をよりどころに生きていく、頑張っていくのか。つまり、生きがいや、働きがいを、どのようなところに求めるのかが、重要です。

「自分のために生きる」「家族のために生きる」「お金のため、生活のために働く」「社会の役に立つために働く」など、様々な考え方がありますが、私は、「自分のために働き、生きること」と、「社会や人のために働き、生きること」の両方が必要で、そのバランスが大切だと思います。

私が教員となって初めての卒業生に、病気で片足を無くした女子生徒がいました。彼女は、中学校三年生の時にソフトボール部のエースで活躍していましたが、高校入学の前に発病し、手術してから入学しました。天国から地獄への高校生活のスタートでした。しかし、三年間頑張り続け、大学に進学し福祉を学び、福祉施設に就職しました。

もともと、運動が好きで、能力も高かったのですが、三十歳の時に、座ったままの姿勢でバレーをするシッティングバレーボールに出会い、障害者スポーツを始めました。北京、ロンドンで開かれた、パラリンピックにセッターとして出場し、まず一勝することを目標に頑張り、

活躍しました。先日、二月七日の神戸新聞明石版に、東京パラリンピックで使われる聖火の採火についての記事が掲載されていましたが、八月一三日に明石市内の福祉施設の職員として火を起す役割を担うのが、彼女です。

彼女は三年間義足を付けて高校生活を送っていましたが、明るく前向きに頑張っている姿が印象に残っています。親しい友人であった数人は、彼女の生き方の影響もあり、卒業後福祉施設に就職しました。

このように、自分のためにしっかりと生きている生き様は、周囲の人の生き方にも影響を与え、社会福祉を職業とし、人のため、社会のために役立つと人を生み出しています。まさに、彼女は、自分のために生きるとともに、社会のために生きていると言えるのではないのでしょうか。

昨年五月、本校の人権福祉講演会に、ピョンチャンの冬季パラリンピックのスキー競技に出場した本堂杏実(あんみ)さんに来ていただき、ラグビーからアルペンスキーに転向し、「不可能を可能に変える」という強い意志を持ち、苦難を乗り越え入賞した話や、不自由な左手を上手に使ってラグビーボールを回転させパスする姿を見せていただきました。私は、体に障害のある人が、夢や希望を追い求め、人々の支えを受けながら、絶望の淵から復活して、粘り強く、頑張っている姿、生活そのもの、生き様そのものが、勇気を与えてくれるパラリンピックに、多くの、そして深い学びがあると思います。今年の夏に日本で開催される大会を楽しみにしています。

黄熱病研究者の野口英世氏は、「過去を変えることはできないし、変えようとも思わない。人生で変えることができるのは、自分と未来だけだ」といっています。また、カナダ生まれの心理学者のエリック・バーン氏は、「他人と過去は変えられないが、自分と未来は変えられる」という言葉を残しています。自分の可能性を信じ、チャレンジ精神を持って自己を高め、自己実現を目指すとともに、他者を思いやり、慮り、社会のために生きる人になれるよう、努力を続けてください。

そして、今年は阪神・淡路大震災から二十五年目の節目を迎えた年、本校でも一月十七日に放送による追悼集会を行うなど、「命の大切さ」を考える機会がたくさんありましたが、これから社会へ出て、何よりも「命の大切さ」と「感謝する気持ち」を忘れずに、強く、たくましく生きて欲しいと思います。

最後になりましたが、保護者の皆様、三年間本当にありがとうございました。この度の卒業式の対応も含め、明石西高校の教育にご協力ご理解いただき、共に成長を支えることができました。そして、私たち自身も成長することができました。お礼申し上げますと共に、これからも明石西高校をご支援いただきますよう、お願い申し上げます。

それでは、卒業生の皆さんの前途が、健やかで、幸多きことを心から祈念して、式辞いたします。

令和二年二月二十八日

兵庫県立明石西高等学校長 片岡 正光